

第3回共同研究フォーラム

アチック・ミュージアムにおける

隠岐調査の軌跡



「カナギ漁（右手に櫂を持ち左手にヤスをもって海鏡を口にくわえて船から身を乗り出して覗いているところ）と洪沢歌三」 神奈川県立歴史博物館所蔵アチック写真 目録番号：ア-20-16

【お問い合わせ】 神奈川県立歴史博物館

神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1 〒221-8686 Tel.045-481-5661(代) Fax.045-481-3155

E-mail : 03kyoudou-forum@kanagawa-u.ac.jp 国際常民文化研究機構 <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>

【研究趣旨説明】

小林 光一郎（神奈川県立歴史博物館特別研究員）

【パネル報告】

羽毛田 智幸（横浜市歴史博物館学芸員）
アチック・ミュージアムの活動を追う
— 同人の動向と資料の所在 —

永井 美穂（淡沢史料館学芸員）
調査メモから研究活動を考える
— 宮本馨太郎の事例 —

木村 裕樹（天理大学文学部非常勤講師）
高橋文太郎の見た隠岐

榎村 賢二（鳥取県立公文書館県史編さん室専門員）
昭和9年、10年の隠岐探訪からみるアチック・ミュージアム資料
— メタデータの重要性 —

小林 光一郎（神奈川県立歴史博物館特別研究員）
アチック・ミュージアムの調査・研究史上におけるエポック
— 研究史上における隠岐調査の位置づけ —

丸山 泰明（天理大学文学部歴史文化学科考古学・民俗学専攻准教授）
民俗学にとって島とは何か

【総括】

前田 禎彦（神奈川県立歴史博物館国際文化交流学科教授）

【質疑応答】

2018.

2/17 土

13:30-17:30

参加無料
事前申し込み不要

神奈川県立歴史博物館
1号館 308 会議室

主催：神奈川県立歴史博物館
International Center for Folk Culture Studies



Attic Museum

アチック・ミュージアムにおける 隠岐調査の軌跡

アチック・ミュージアム（以下、アチック）とは、渋沢敬三（渋沢栄一の孫。戦前期に横浜正金銀行、第一銀行を経て日本銀行総裁、戦後も大蔵大臣、国際電通社長、金融制度調査会会長、国際商業会議所日本国内委員会会長などをつとめる。以下、敬三）が、アチック同人とされる研究者らと共に、採訪調査や民具蒐集といった民俗研究、漁業史研究、文献索引作成などを行った研究組織である。その数あるアチックの調査の中に、昭和9年5月と昭和10年8月の二度にわたった隠岐調査がある。

「アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究―「隠岐」調査の検証・分析と民俗学的考察―」班は、この二度の隠岐調査の検証のため、隠岐調査の民俗学研究史における考察や、調査当時と現在における景観・民俗事象に関する考察、アチックや関連する研究者たちに及ぼした影響など、「隠岐調査」を中心とした調査・研究を行った。

今回のフォーラムではこれら検証や班員の考察の結果を発表し、アチックにおける隠岐調査とは何だったのかということについて迫っていく。
(国際常民文化研究機構共同研究(奨励)2015年 代表:小林光一郎)



西ノ島船越の漁港。1935年8月撮影。神奈川大学日本常民文化研究所所蔵アチック写真目録番号:写3-5-1



西ノ島船越の漁港。写3-5-1と同じ場所で。2016年9月13日 榎村賢二撮影。

交通アクセス

- 東急東横線「白楽駅」または「東白楽駅」下車 徒歩13分
 - 横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用
 - 1 番乗場 36系統 富田町/緑車庫行「神奈川大学入口」下車
 - 1 番乗場 82系統 八反橋/神大寺入口行「神奈川大学入口」下車
- ※駐車場がございませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください。



神奈川大学 国際常民文化研究機構

〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
Tel: 045-481-5661 (代) <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>



【講師紹介】

- **羽毛田 智幸** (横浜市歴史博物館学芸員)
日本民俗学、博物館学、民具研究。神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科博士前期課程修了。
○主な著書
「アチック・ミュージアムにおける出版と写真」『歴史と民俗 神奈川大学日本常民文化研究所論集 31』(平凡社、2015年)、『薩南十島調査とその後への影響』『国際常民文化研究叢書 10』(神奈川大学 国際常民文化研究機構、2015年)
- **永井 美穂** (渋沢史料館学芸員)
日本民俗学。神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科博士前期課程修了。
○主な著書
「渋沢敬三と中在家花祭」『祭洞祭』(渋沢史料館、2013年)
「花祭 東京三田綱町邸」『DVD ブック 甦る民俗映像―渋沢敬三と宮本馨太郎が撮った一九三〇年代の日本・アジア』(岩波書店、宮本瑞夫・佐野賢治・北村皆雄・原田健一・岡田一男・内田順子・高城玲編、2016年)
- **木村 裕樹** (天理大学文学部非常勤講師)
民俗学。総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程単位取得退学。同大学大学院にて博士(文学)取得。
○主な著書
「保谷民博旧蔵資料の全容」『財団法人日本民族学協会附属民族学博物館(保谷民博)旧蔵資料の研究』(共著。国立民族学博物館、2017年)、「描かれた轆轤」『緻形蕙斎画 近世職人尽絵詞―江戸の職人と風俗を読み解く』(勉誠出版、2017年)、「木地屋「根元地」の近代」『年中行事論義―日次紀事からの出発』(岩田書院、2010年)
- **榎村 賢二** (鳥取県立公文書館県史編さん室専門員)
民俗学、民具研究。神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科博士後期課程単位取得退学。同大学大学院にて博士(歴史民俗資料学)取得。
○主な著書
『明海及び中海の里海としての利用慣行 神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 21』(榎村賢二編)(神奈川大学日本常民文化研究所、2014年)
『鳥取県史ブックレット 9 里海と弓浜半島の暮らし―中海における肥料藻と採集用具―』(鳥取県、2011年)
- **小林 光一郎** (神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員)
日本民俗学。神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。同大学大学院にて博士(歴史民俗資料学)取得。
○主な著書
「渋沢敬三における民具観の変遷」『歴史と民俗 神奈川大学日本常民文化研究所論集 31』(平凡社、2015年)、『鳥取県史ブックレット 13 鳥取県の妖怪 ―お化けの視点再考―』(鳥取県、2013年)、『図解案内 日本の民俗』(共編著。吉川弘文館、2011年)
- **丸山 泰明** (天理大学文学部歴史文化学科考古学・民俗学専攻准教授)
民俗学。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。国立歴史民俗博物館特任助教、国立公文書館アジア歴史資料センター調査員を経て現職。日本民俗学会所属。
○主な著書
『渋沢敬三と今和次郎』(青弓社、2013年)